伝統的河川工法の第一歩　竹蛇籠製作講習会

木津川で１９８本製作して設置
今年は７ｍの竹蛇籠を６本を目標に
出来れば 12 本を作りたい

参加費無料



竹蛇籠

つくりにご参加下さい

11 月 7、8 日（土、日）9:00～12:30

製作場所　　木津川玉水橋東詰め広場

JR 奈良線：玉水駅下車西へ徒歩 500m

西洋土木技術が導入されるまでは住民たちや戦国武士たちは洪水から農地などを守るために自然を生かした工事を行ってきました。その一つとして、武田信玄などは身近な材料を資材として竹蛇籠を製作し、財産を守る道具として活用、普及してきたとされています。洪水時には激しく土砂も動かされますから、それを利用して川は川が作るとしてきた伝統的河川工法の一つに竹蛇籠があります。やましろ里山の会では、この竹蛇籠を製作して木津川の両岸に 6 か所の竹蛇篭を設置、さらに中聖牛を 5 群 16 基を設置、一昨年から将棋頭型水制を 3 基設置してきました。それらに使用した竹蛇篭は 198 本になります。これまで、この伝統的河川工法を学ぼうとされて静岡県 岡山県 高知県 福井県 大分県等から木津川にお越しになり、韓国や中国からも現地見学をお迎えいたしました。やましろ里山の会では京都大学防災研究所の指導の下、国交省淀川河川事務所の理解と協力を得て 2015 年からこれらの製作設置を行ってきました。2026 年度の取組として伝統的河川工法の一つである竹蛇籠（六つ目編み・幅 45 ㎜に割った竹を使用）製作講習会を行いますので関心のある方のご参加をお待ちしています。

主催　NPO 法人やましろ里山の会　　fddbw257@yahoo.co.jp
京田辺市田辺深田 15　　0774-64-4183（Fax 兼）
協力　国交省淀川河川事務所　　共催　京の川の恵みを活かす会